

## 代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社  
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

おだやかな初春をご家族でお迎えのこととお慶び

申し上げます。スピードスケート・バトミントン・柔道を若い人達が力を付け活躍しているのを見ると誇らしく思います。

介護業界は慢性の人手不足ですが若い人達が魅力を感じる職場にするには、どうしたら良いのか最近では考えひとしおです。

今年も皆様方にご多幸ありますようにお祈り申し上げます。

## サンライズの物語

病気を患っても、常に上を目指す……

友人をも勇気づける、そんな強さの物語



その方は60代で脳出血に罹患され右半身に不全麻痺が残った方でした。大きな病院でリハビリを受け自宅へ戻りましたが、常に自分自身を叱咤し毎日の生活で自分に負荷を与え、現状の自分に満足をしないう方でした。

退院当初は右手で文字も書けず、ズボンも上げる事が難しかったのですが、毎日毎日リハビリを行い少しずつ身体機能を回復していったのでした。その方の口癖は「私は今の自分に満足していない。常に上を目指しているのよ」と……素晴らしい言葉だと感激した事を鮮明に覚えております。

これからの自分の人生をどう生きるのかが私に課された問題だとも言われておりました。人に対する言葉や態度も自分で変えて見せるんだと……

ある日その方が電話で友人と話されるのを聞いた時の感動が忘れられません。電話口の友人も片麻痺でなかなか自分の体がきかないとの事。その友人に「いいのよ。いいのよ。それでいいの。自分でできる事だけ一生懸命にやればいいのよ。自分が病気になったからこそ分かることが沢山あるのよ。体がきかない自分自分の心を磨けばいいのよ」と友人を励まされていたのです。

同居していたご主人も亡くされ、自分自身も辛く夕方になると涙が零れて仕方ないと話されていたのに友人を勇気づける優しさ、素晴らしいと思いました。

突然病に冒され今まで出来ていた事ができなくなる悲しさ、もどかしさ……そんなご利用者様の心に寄り添える介護職でありたいと思っております。

# 介護に役立つ書籍紹介

## 感情に働きかける これからの 介護レクリエーション

監修：武藤 清栄 編集：エモーショナルな介護レク研究会

「感情に働きかけるレクリエーション」を紹介しています。本書には、従来型の介護レクでは含まれないようなものもあります。利用者さんは介護を受ける高齢者である前に、ちゃんとした“おとな”である。“おとな”である利用者さんの生きる意欲を応援するには、「こんな介護レクがあってもいいのでは？」という視点から生まれたアイデア集です。

感情に働きかける これからの  
介護レクリエーション



### NEWS 今月のニュース

## 施設で「介護×美容」の試みひろがる

### 美容師の資格を持った介護職に注目

介護に美容の要素を掛け合わせ、要介護者の満足度はもちろん、働き手のやりがいとスキルも高めようとの動きが、介護と美容の両業界で広がっている。

来春には、介護職員研修と美容講座を一カ所で学べる社会人向け学校も東京都内に開校予定。人手不足に悩む介護業界に、新たな人材を呼び込む試みとしても注目されている。

人材コンサルティング会社「ミライブプロジェクト」（東京都）は来春、介護と美容を学ぶ社会人向けの各種学校を開校する。通信講

座と組み合わせた介護職員の初任者研修に、マッサージなど美容の要素も取り入れた講座を一カ所で学べるのが特徴。夏からは美容師向けの訪問美容のコースも始める。一講座の定員は約三十人で、期間は三カ月から半年間を予定している。

同社広報の中野路子さんは「美容を日々のケアに生かしてほしい」と開校の目的を話す。気持ちが明るくなるといった要介護者への好影響や介護職員のやる気向上はもちろん、美容師の資格を持ちながら出産などで仕事から離れている「潜在美容師」らが、介護業

界に興味を持つマッチング効果も期待できるという。

神奈川県で特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人「愛川舜寿会」の馬場拓也常務理事は、介護職の仕事を「お年寄りの生活に小さな幸せをつむぐこと」と表現。そこには美容も含まれるとして「美を諦めない、諦めさせないことが大切」と訴えた。



< 中日新聞  
2017年12月6日（水） >



## 今月の名言

ようやく子どものような絵が描けるようになった。ここまで来るのにずいぶん時間がかかったものだ。

パブロ・ピカソ

パブロ・ピカソは、1881年スペインに生まれ、92年間の生涯におよそ1万3500点の油絵と素描、10万点の版画、3万4000点の挿絵、300点の彫刻と陶器を制作したと言われています。ピカソならではの、極めたその道のりのすさまじい長大さが伝わってくる一言です。

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>